

北谷町谷の26のこと [AtoZ]

発行日 2021年3月

協力 谷の山を愛する会
大阪府立大学 学生ボランティア

写真提供 谷区
源野正弘
田中久明三

文・デザイン・編集 樋口潤一 (福井県里山里海湖研究所)

制作・発行 福井県里山里海湖研究所
〒919-1331
福井県三方郡若狭町鳥浜 122-12-1
tel 0770-45-3580
<https://satoyama.pref.fukui.lg.jp/>

参考文献：『勝山市史 第一巻』1974（勝山市）

『北谷見聞記』1983（勝山市北谷町老人クラブ）

A to Z については、塩見直紀氏（半農半X研究所）の手法に学び、
CD ジャケットサイズ 16 ページのミニブックフォーマットを利用させ
ていただきました。<https://atozconcept.net/>

北谷町谷の 26のこと

A to Z





福井県勝山市北谷町谷

谷は福井県勝山市と石川県白山市を結ぶ歴史ある街道沿いの集落です。標高 500mほどにある山間部のわずかな平坦地を利用して集落が拓かれました。街道は「牛首道」と呼ばれ、多くの人々が行き交い、また多くの物資が歩荷（ぽっか）によって運ばれました。交易の要所であった谷は山間部ながら、明治には人口も 1200 人を超えて、勝山近郊で最大の集落になりました。一方、冬は 3m以上の大雪が降る豪雪地帯でもあり、災害に悩まされる地域でもありました。現在、集落に暮らしている人は減りましたが、「はやし込み」や「お面さま」のような祭りの時には、かつての住民や観光客でにぎわいます。



contents

A 青空	G 行列	N narezushi	U urami ishi
B ブナ	H ホウママ	O omensan matsuri	V volunteer
C 茶(芝茶)	I イロリ	P pray	W wonderful
D 伝統文化	J 神社	Q quiet	X 交流
E 笑顔	K かんじき	R road	Y yuki
F 不動の滝	L love	S syukaijo	Z zou
	M 谷の山を愛する会	T matabegusa	
			tezori
			T てぞり



昭和 32 年春の谷集落



はやし込みの鮮やかな衣装が青空に映えます。谷の空は、四方を山に囲まれています。春は新緑に、夏は濃緑と白い雲。秋はブナ林の紅葉とイワシ雲、冬は白い山と黒い森。その山とのコントラストで青空も表情が変わります。

青
空

集落背後の急斜面には、一面にブナ林が広がっています。このブナ林には、集落を雪崩から守り、また涵養（かんよう）林として水源を保つ役割があります。そのため禁伐林として江戸時代のころから地元の人たちによって守られてきました。

ブ
ナ

谷は斜面にできた集落で、石垣を築いて家を建てました。芝茶はこの石垣に生えているお茶の木です。各家庭で春に枝を刈り、軒などに干して乾燥させ、その葉を焙じて一年に飲むお茶をつくりました。

茶
(
芝
茶
)

A aozora

B buna

C cha



祭りや郷土食、ブナ林など、地域で伝えられてきたものが今も人を魅了し、地区や世代を超えた交流を生み出しています。はやしみは人口減少などが理由で途絶えていましたが、2000 年に地区出身者を中心に復活、また人々を谷に呼び戻しました。

伝統文化

笑う門には福来る。普段は人の少ない谷に、祭りになると大勢の人たちが訪れます。もともと谷に住んでいた人たちも戻り、話に花が咲き、人と人が会うと、自然と笑顔がこぼれます。他所からのお客さんも笑顔で迎え入れてくれる、そんなお祭りです。

笑顔

伊良神社から小道を降りていくと落差 15 mの滝があります。傍らには天文二十(1551)年の年号が刻まれた不動明王が安置されています。谷区では大正 14 年の大火以降、この不動明王を鎮火の神として祀っています。



不動の滝

はやしみは江戸時代中期から始まったとされます。大名行列をまね、天狗や、殿様、三番叟などに仮装した人たちが行列をなして区内を練り歩き、神社へ向かいます。神社へ到着すると、そこで舞や神楽を奉納します。

行列

田植えのコビリ(10時の間食)に食べました。朴の若葉にきな粉をふり、炊立てのご飯を置き、さらにきな粉をふって葉で包む。温かいご飯が朴葉にむせて、香りが鼻を刺激します。谷では毎年春にほうば会を開いて、来た人たちにふるまっています。

ホウママ

谷では「ジロ」と呼びます。昔はイロリの火を使って炊事をしました。火には鍋が掛けられ、横にワタシといわれる鉄の台を置いてモチなどを焼きました。昼でも夜でも、火を燃やして、食後は火にあたりながら世間話をするのが楽しみのひとつでした。

イロリ

D dentou bunka

E egao

F

G gyouretsu

H houmama

irori



伊良神社は、三方を滝波川の支流に囲まれ、川の浸食によって出来た崖の上に建っています。地勢がけわしく、敵を防ぐのに適したこの場所は、戦国時代には一向一揆衆の城、谷城が建てられていきました。

J jinja



神社

雪の上を歩くとき、ゴボル（雪の中に足が落ち込む）のを防ぐために装着する道具。クロモジなどの枝を曲げて作ります。

かんじき

K kanjiki



2007年設立。ブナ林歩道整備や、新緑観察会などを行っています。また祭や保存食などの文化を守り、体験してもらう活動も続けています。メンバーは谷区出身者が中心ですが、その活動や雰囲気に魅了されて、他地区から活動に参加する人もいます。

L love

谷の山を愛する会



カマシやシコクヒエともいわれる雑穀の一種です。実を火で炒って、石臼で粉に挽きます。お椀などに粉を入れて、お湯を注いでかき混ぜて食べました。この食べ方はイリコやオチラシといって、昔の子供のお昼ごはんにもなりました。

M matabegusa



鯖のナレズシは、冬のタンパク源として谷のどの家庭でも漬け込んでいました。11月に漬けて30～40日すると食べられるようになります。いろいろの火であぶつて食べると大変おいしいです。



ナレズシ



谷に伝わる夜叉（やしゃ）面、翁面、尉（じょう）面、福寿面の4つの能面を礼拝し、1年の豊作を祈願する行事です。お面さんが笑顔に見える年は豊作に、険しい顔に見える年は凶作になると言われています。

O omensan matsuri

お面さん祭り



峠には、交通安全を祈る神様として地蔵がまつられています。谷峠のお地蔵様は、元は越前側と白峰側にそれぞれ1体ずつまつられていきましたが、昭和24年のトンネル開通に伴って移転しました。今では一緒に祀りされています。

P pray



**祈
り**

冬の夜は獣の鳴き声も聞こえません。しんしんと雪の降る夜はさらに静かです。毎日のように雪が降り積もると、この静かな夜が怖く感じるといいます。いつかこの静寂を破り、どーっという音と共に雪崩が来るかも…。そんな恐怖心が心の奥にあります。

Q quiet



**静
け
さ**

牛首道は古来からの物流の要所で、歩荷（ぼっか）と呼ばれる荷物を運ぶ人々の往来が盛んでした。勝山から白峰には米、塩、酒、雑貨などの日用品が運ばれ、白峰からは生糸、コシキ（へら状の雪かき道具）、白山紬などが勝山に運ばれました。

R road



道

谷集会場は、昭和28年（1953）に青年部の集会場として建てされました。洋風建築の木造二階建で、1階は畳敷きの集会場、2階は一室の広い空間になっています。現在も、谷区の集会場として利用されています。

S syuukaijo



**集
会
所**

積雪を利用して、冬に山から木材を搬出するときに使われたそり。傾斜と、荷物の重量を利用して重い材でも運ぶことができました。いまでは子供たちを乗せて遊ばせながら、使い方を教えています。

T tezori



**て
ぞ
り**

谷城を落とした柴田義宜は、その3年後に一揆の大将西脇が生きていると聞いて谷を訪れた。出会った石工に「西脇はすでに死んで3年経つ」と聞き、悔しがった義宜は槍のこじりで道端の石を突いた。その跡が今も残ると言われている。出会った石工こそが実は西

U 脇本人であつた。
urami ishi



毎年、お面さん祭りには大阪府立大学の学生たちが設営のボランティアに訪れます。谷の人の温かいもてなしや、おいしい郷土料理、雪国の暮らしに魅了されて、卒業してからも通い続ける学生もいます。

ボランティア



谷を訪れた人々は、ワンダフルな自然に圧倒され魅了されます。新緑や紅葉のブナ林、豊かな水や滝、迫る雪の壁とその景色。その魅力を深めるのが、出迎える人たちと、ここでしかできない経験です。

ワンダフル



歩荷の荷運びや、焼畠をして暮らす人たちの移住など、谷はかつて越前と加賀の交流の最前線でした。今は、大阪から谷での暮らしを体験しようと学生達が訪れ、祭りには都会から多くの人たちが参加し、様々な交流の場となっています。

交流



谷は日本の代表的豪雪地帯です。昭和38年には5m以上の積雪がありました。大変なのは雪下ろしです。屋根の雪が1m積もったとすると、六畳間の屋根に乗った雪の重さは2tになります。雪下ろしをしなければ屋根が壊れてしまうのです。

雪



お面さん祭りで、お客様をお迎えする雪像。大きい像はマンジュガサ、小さい像はゴザボシをかぶっています。小さい雪像は、かつやま子ども村の小学生や、大学生ボランティアが、神社から教会までの道に100体以上作って並べます。

像

V
volunteer

W wonderful

X_x



Y yuki

Z zou



「谷集落 AtoZ」 谷の山を愛する会 × 大阪府立大学 学生ボランティア 2020.2.16
谷にあるものを A から Z まで Z 6 個さがしてみましょう。長所でも短所でも、他の地域にあるもの無いもの、無くなったもの、SNS に載せたいもの、隠しておきたいこと、こうありたいと思うもの・・・。
みんなさんの意見を集めて、谷の魅力を考えてみたいと思います。
そう問い合わせてワークショップを始めました。

『北谷町谷の26のこと [AtoZ]』は、2020年2月に谷で行われたワークショップの結果をもとに制作しました。このワークショップは、谷の山を愛する会(以降「愛する会」)主催の「お面さん祭り雪像造り事業」にボランティアで参加した大阪府立大学の学生と、愛する会のメンバーが、それぞれ谷に「ある」ものを言葉で書き出してみようというものです。「ある」ものを考えるときに、その言葉の頭文字で A～Z の26に分類します。そうすると、「O:お面さま祭り」「Y:雪」のようにすぐ思いつくものもあれば、Q、X など難しいものもあります。最終的に、学生と愛する会のメンバーを混ぜたグループを作り、話をしながら言葉を見つけ出しました。言葉を探す作業の中で、愛する会の人たちは自分の中にある記憶、知識、経験を呼び起こし、学生は出てくる言葉から知らない谷の山の生活を聞き出します。愛する会のメンバーは、都会から来た人が谷のどこに魅力を感じているかを知り、学生たちは山の生活を語る言葉に都市部にはない新たな刺激に出会えた場ではなかったかと思います。

たくさん出た言葉のうち、冊子を制作するにあたり使えなかったものもあります。熊、猪、リス、ヘクサンボ（カメムシ）、星空、山菜…、魅力的であっても掲載写真が用意できないという理由で出せませんでした。また、学生からは「日本の原風景」「懐かしい場所」といった里山風景の印象や、「笑顔で迎えてくれる」「おおらか」「すごいもてなし」と愛する会の人たちとの交流の好印象も多くありました。「屋号」や「出作り」などの言葉は若い学生にはピンとこず、初めての言葉の説明に興味を持ちながら耳を傾けていました。26の言葉を探すワークショップは、お互いに様々な気付きを生み出せたのではないでしょうか。

福井県里山里海湖研究所